地獄は欲望によって覆われ、天国は苦難によって覆われている。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、このように語った：「地獄は欲望によって覆われ、天国は苦難によって覆われている。」二大真正集に収録されたハディースで、これはアル＝ブハーリーのもの。別の伝承では「覆われている」の代わりに「囲まれている」という語が使われている。

［真正］［二大真正集収録の伝承］

このハディースの意味は、こうである：天国への道は人間が嫌う物事で覆われている。というのも、心は元々、楽な方へと傾きがちだからである。地獄も同様で、禁じられた物事を行ったり、服従行為から遠ざかったりすることによって、自分自身と地獄との間の覆いを破ってしまわない限り、そこに入ることはない。その覆いを破った者は、覆われていたものの中に入ってしまうことになる。つまり天国の覆いは、嫌に思う物事を行うことであり、地獄の覆いは、欲望が命じることを行うことである。この「嫌に思う物事」の中には、崇拝行為において努力し、それを継続的に行うこと、そこにおける辛苦に対する忍耐、怒りの制御、赦しの心、寛大さ、サダカ（施し）、悪くされた者によくすること、欲望を抑えて忍耐することなどが含まれる。人間の心は、礼拝に対する継続した努力を嫌に感じるかもしれない。なぜならば、そこには努力や、現世的物事に対する願望の抑制の必要性がつきまとうからである。また、ジハードや、財産によるサダカを嫌に思うかもしれない。人間は、財産を愛するように出来ているためである。それ以外の服従行為も、同様である。人間が、命じられていることを行い、禁じられていることを避けることによって自らの欲望に勝ち、心が望むことに反すれば、それは天国に入り、地獄から遠ざけられる原因となるのである。一方、地獄を覆っている欲望は、酒、姦淫、見ることを許されていない女性を見ること、楽器の演奏など、禁じられた欲望のことであるというのが表面的な解釈である。合法な欲望はこの中には含まれないが、そうであっても、そこに過度に浸ることは忌避すべきである。なぜなら、そうすることで禁じられた物事に足を踏み入れたり、心が硬化したり、服従行為をよそにそこに勤しんでしまったり、現世を手にするために侵犯してしまう恐れがあるからである。

https://sunnah.global/hadeeth/ja/show/3702

النجاة الخيرية
ALNAJAT CHARITY
لجنة الدعوة الإلكترونية
EDC E-Da'wah Committee